

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management



【天然の滑り台（ウォーターライダー）（場所：宮城県の国立花山青少年自然の家に隣接した砥沢）】

## ニュースの項目

【巻頭言】…………… P2  
 世界子ども水フォーラム・フォローアップ  
 in 東京 2011 実行委員会 実行委員長  
 北野 大（明治大学理工学部教授）  
 【特集 東日本大震災 被災地支援 「子ども  
 森水キャンプ」開催速報】…………… P3  
 【報告事項 1 調査研究等】…………… P6  
 1. 「河川環境管理財団研究発表会」の開催  
 2. 「第 18 回 河川環境研究会」を開催  
 3. 平成 23 年度 第 2 回アドバイザー委員  
 会の開催  
 4. 「第 1 回木曾三川治水史資料作成委員  
 会」の開催  
 5. 国土交通省地方整備局等優良工事等表彰  
 【報告事項 2 河川環境学習関係】…………… P8  
 1. 「第 9 回世界子ども水フォーラム・フォ  
 ローアップ in 東京 2011」の開催

2. 「川の指導者（RAC リーダー）養成講習  
 会」の開催  
 3. 「プロジェクト WET エducator 養成  
 講習会」の開催  
 4. プロジェクト WET 国際会議「Sustaining  
 the Blue Planet Conference」参加報告  
 5. 平成 23 年度「川に学ぶ体験活動全国大  
 会 in 鶴見川流域」に参加  
 6. 第 1 回「水教育ガイドライン検討委員会」  
 の開催  
 【公園・施設管理コーナー】…………… P12  
 1. 国営木曾三川公園「川とカッパ」の探検  
 ツアー 2011 夏」を開催  
 2. 琵琶湖・淀川にふれよう「琵琶湖・淀川  
 流域圏再生推進協議会」の開催  
 3. 河川環境管理財団杯争奪サンスポ野球大会  
 【河川整備基金コーナー】…………… P12

1. 平成 24 年度河川整備基金助成事業の募集  
 【出版案内】…………… P12  
 1. 「川を活かした体験型学習プログラム」  
 を好評販売中  
 2. 「水辺の安全ハンドブック(全面改訂版)」  
 を好評販売中  
 【お知らせ・募集】…………… P14  
 1. 「第 18 回河川整備基金助成事業成果発  
 表会」のお知らせ  
 2. 「河川環境管理財団地方事務所研究発表  
 会」の開催案内  
 3. 「平成 23 年度川に学ぶ全国事例発表会」  
 の開催案内  
 4. 「プロジェクト WET ファシリテーター  
 講習会」の開催予定  
 5. 「平成 23 年度プロジェクト WET & ワ  
 イルド合同全国大会」の開催予定

## 巻頭言 世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 東京 2011 に参加して

水には（１）資源としての価値（２）日常生活の中で上流の人たちと下流の人たちとの水をめぐるといった社会的価値（３）鴨長明が方丈記で述べているように、水をめぐるといった精神的な価値があります。特に（１）の資源としての水を考えますと、水は太陽により蒸留され、雨として不断に供給される循環性の非枯渇性資源です。しかしながら雨水として供給される水は極めて地域的な資源であります。中東の国では年間降水量が100mm程度またはそれ以下ですが、日本では1,800mmほどあります。「湯水のごとく使う」という表現がありますが、たぶん日本と砂漠の国とではその意味はまったく異なるものと思います。また、水は代替不可能な最も重要な資源であり、生物生存の基盤でもあります。水に代わる資源はありません。

20世紀、私たちは民族の相違、宗教の相違、資源を求めて等の理由から戦争をしてきました。大変悲観的な予測として、21世紀は水と食料を求めた戦争が起こるのではないかと心配しています。なぜなら、人口の増加や生活レベルの向上は必然的に水の需要を増大させる要因になるからです。

さて、このような重要な水について、今後水とどのようにかかわっていくか、水とかがわってきた文化、伝統をどのように継承すべきか等について、未来を担う多くの若者が考え世界に発信するということが大変重要なことであり、他の6名の実行委員と一緒に参加させていただきました。会議は全国の中学、高校生に日ごろ、水に関して行っている行動を、あらかじめ作文に書いていただき、その内容から32名の生徒を選考し、2泊3日のスケジュールで代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで8月2、3、4日に開催されました。会議の目的は来年マルセイユで開催される世界水会議に参加していただく生徒さんの選考です。

会議の進め方ですが、まず以下の5つの分科会にそれぞれ6、7名ずつ配属され、それぞれのテーマについて生徒さんたちでの話し合いが行われました。

- 第1分科会 : 水による災害(洪水や津波、土砂災害等)
- 第2分科会 : 川での体験活動
- 第3分科会 : 水と自然環境の保全・復元・再生
- 第4分科会 : 生活や産業に必要な水
- 第5分科会 : 水の歴史や文化

各分科会には大学生がファシリテーター、及び記録係として参加し、議論の進め方等の指導を行ってくれました。私たち7名の実行委員はその討議の様態を観察し、積極的に議論に参加しているか、きちんと自分の意見を述べているか、人の意見を聴いているか等の視点からまず評価しました。

最終日の午前中に最終発表会が行われ、各分科会が工夫を凝らした特色のある発表を行いました。寸劇形式、テレビのクイズ形式等、限られた時間と資材の中で参加者のみなさんはよく調べ、きちんと自分たちの意見をまとめ、頑張って発表してくれました。寸劇形式の発表などは私には全く想定外の方法であり、若い人の柔軟な発想に頭が下がった次第です。特に私の評価の高かった分科会は自分たちの住んでいる地域に係る伝統や風習などを取り込んだ内容の発表でした。それぞれの発表に対し、異なる分科会の生徒さん達から積極的な質問が出たことは大変素晴らしいことでした。人の意見に耳を傾け、そして疑問や異なる考えを表明するのは大事なことです。私の海外経験からも、日本は外国人から silent delegation (静かな代表団) とかつては揶揄されていました。



審査をする立場からは、みなさんの熱気が十分に伝わってきたのですが、準備のための時間が足りなかったこともあります。メモをただ読むという人が多く、自らの意見を皆さんに理解していただくという態度に欠けていた気がします。今回、選ばれた一人はこの点では、満点ともいえる発表ぶりでした。

最後選考投票ですが、私たち実行委員ばかりでなく、同じ世代の人たちからの視点も大切にするため、自己推薦も含め生徒さんたちも投票し、上位の6人が選ばれました。最終的に選考された6人は来年マルセイユで開かれる世界水会議に参加することになります。

惜しくも選に漏れた人たちと、選ばれた人たちとの差は紙一重です。今回の2泊3日の合宿は北海道から沖縄までの全国からの生徒さんが集合して行われました。先に述べたように、あくまでもフランス派遣の生徒さん達の選考が今回の目的でしたが、生徒さんたちにとってはフランスに派遣されるよりもっと大きなものを得たと思います。それは普段では経験できない異なる地方の人たちとの交流です。水に関心を持つという志を同じくする全国の人と友達になれたことです。今後もこの志を忘れず、今回知り合った仲間とお互いに切磋琢磨して、さらに仲間を広げ、広い意味での Good Water Practice が我が国でさらに普及することを期待しております。

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in  
東京 2011 実行委員会 実行委員長  
きたの まさる  
北野 大 (明治大学理工学部教授)

## 特集

# 東日本大震災 被災地支援 「子ども森水キャンプ」 開催速報

## 1. はじめに

東日本大震災の未曾有の災害に鑑み、河川環境・防災教育の普及・啓発を目指している当財団として、被災を受けた地域の子どもたちを支援するため、河川整備基金による緊急的な助成の一環として、当財団主催による「『子ども森水キャンプ』～森や水辺とふれあい、おもいっきり遊ぼう～」を企画し、夏休み期間中の8月中旬に開催しました。

キャンプの目的は、子どもたちに、豊かな森と美しい川に囲まれた環境の中で、野外活動や宿泊体験を通して、安全、安心感を積み上げながら、楽しく元気に遊んでもらい、これから続く復旧、復興に向けて元気で勇気を得てもらおう、というものです。

## 2. キャンプの概要

場所は、宮城県栗原市の国立花山青少年自然の家、日程は、Aコースが8月15～17日、Bコースが17～19日の2泊3日、それぞれのコースの定員30名、対象を小学3年生から中学3年生までとし、財団HP、子どもの水辺サポートセンター・メールマガジン、さらに、チラシを今回の被災を受けて設立されたボランティア組織であるRQ市民災害救援センターにご協力いただき配布することで、参加者募集を行いました。

運営体制としては、河川環境管理財団がNPO法人川に学ぶ体験活動協議会（通称RAC）にキャンプ運営を委託して行いました。東北地方のRAC加盟団体で「RAC・東北被災地応援プロジェクト実行チーム」を結成し、運営主管となりました。また、キャンプの運営には小川原湖自然楽校、くりこま高原自然学校にご協力いただき、また、子どもたちの送迎については、南三陸観光バスにご協力をいただきました。

## 3. キャンプの日程

キャンプの日程は、Aコース、Bコースとも以下のとおりとしました。

	1日目	2日目	3日目
07:00	(バスにてそれぞれの集合場所を出発)	起床・朝食	起床・朝食
09:00	現地到着・昼食	水辺の生き物探し	振り返りやクラフト作り
12:00	現地到着・昼食	昼食	解散式・昼食
13:00	オリエンテーション	水辺で遊ぼう	現地解散(バスにて)
14:00	レクリエーション・ミニゲーム		各集合場所まで送迎)
17:30	夕食・入浴	夕食・入浴	
19:00	ナイトプログラム①	ナイトプログラム②	
21:00	消灯	消灯	

## 4. キャンプの実施体制

### 4.1 キャンプチーム

子どもたちを6班にわけ、各班にキャンプリーターを配置しました。キャンプリーターには、東北地方で復興ボランティアにかかわってきた大学生等をお願いしました。そして、「RAC・東北被災地応援プロジェクト実行チーム」から、キャンプ・インストラクターとして3～4人、キャンプを統括するキャンプ・ディレクターを1人配置しました。キャンプ・ディレクターは、Aコースは、くりこま高原自然学校の塚原俊也氏、Bコースは、小川原湖自然楽校の相馬孝氏が担当しました。

### 4.2 行動観察チーム

震災から五カ月が経過したものの、精神面も含めた復興まではまだ時間を要するだろう地域の子どもたちが参加対象者となるという今回のキャンプの特徴を踏まえ、静岡福祉大学福祉心理学科の徳山美知代教授の指導のもと、キャンプ期間中子どもたちが安全、安心を積み上げることができているかを観察する「行動観察チーム」を別途結成しました。徳山先生には、Bコースの行動観察チームリーダーとして、現地にも入っていただきました。

行動観察チームは、チームリーダーのもと、臨床心理士の資格をもつ2名と、臨床心理学を学ぶ武蔵野大学の大学院生4名の計6名が各班担当スタッフになり、その中の一人ひとりの子どもたちの様子を観察していただきました。この行動観察結果を通して、今後災害等が発生した場合に、被災地の子どもたちを支援するための水や川に関する活動を含んだキャンプ・プログラムのあり方を検討する基礎資料とすることを狙いとししました。なお、副次的ですが、子どもたちがキャンプ中に何らかの困難な状況になった場合にも、この行動観察の過程で、それらの兆候を早期に発見する可能性が高まり、円滑で適切な対処をとり易くなるという体制となりました。

また、行動観察チームのAコースのチームリーダーを努めていただいた、宮城県多賀城市在住の臨床心理士である鈴木正貴氏には、大震災以降の被災地での自らの活動を踏まえ、子どもたちにどのように対応すべきか、という観点で、7月12日に現地でキャンプチームのディレクター、インストラクターに対し事前研修を行っていただきました。さらにキャンプ前日の14日にも、再度リーダー等に対する事前の講習を行っていただきました。

通常このようなキャンプでは、普段できない経験にできるだけチャレンジさせる、ということが主な目的になりますが、今回は、心の安全・安心感を積み上げていながら、楽しんでもらうことを目的とするのだ、ということがキャンプチーム内で共有できたのだと思います。

なお、各班の行動観察チームスタッフの観察行為によって子どもたちが却って緊張したり不安になったりすることを避けるため、子どもたちの視点からは、各班のキャンプリーダーと同様「一緒に遊んでくれるお兄さん・お姉さん」という信頼関係を子どもたちと築いていただくことにしました。

### 4.3 統括・バックアップチーム

当財団は、今回のキャンプがはじめての取り組みであること及び準備期間も短かったことから、RAC事務局と密接な連携を心がけました。そして、キャンプチーム、行動観察チームが連携して円滑にキャンプが運営されるよう、RAC事務局とともにキャンプ全体の統括・バックアップチームとして常に6～7名が常駐しました。

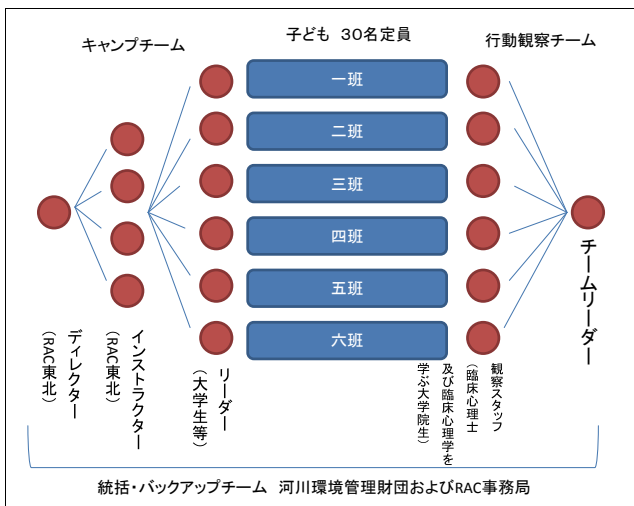


図-1 キャンプ実施体制

## 5. キャンプ実施までの経緯

キャンプ実施までの経緯は以下のとおりです。

5月29日	RAC人材育成部会主催のトレーナー更新講習会にて、今回趣旨のキャンプの実施が可能か財団よりRACに打診
6月8日	河川整備基金 運営審議会「東北地方の子どもたちに、川での体験活動をプレゼント」決定
6月17日	財団、RACが災害心理学に詳しい武蔵野大学藤森和美教授に相談
6月23日	藤森教授の御紹介を受け、財団が静岡福祉大学福祉心理学科徳山美知代教授に相談
6月27日	RACフォーラム 東北ミーティング 現地にて今回のキャンプの打ち合わせ
7月11日	「子ども・森水キャンプ」募集開始(締め切り8月8日)
7月12日	鈴木正貴臨床心理士によるキャンプ事前研修会、キャンプチーム現地踏査等
8月14日	現地において関係者による事前打ち合わせ
8月15-17日	Aコース
8月17-19日	Bコース

## 6. キャンプ報告

### 6.1 Aコース概要

Aコースには、主に石巻市の子どもたち24人が集まりました。男子6人、女子18人、小学3、4年生14人、小学5、6年生8人、中学生2人でした。

天候にも恵まれ、予定通り2日目に川での体験活動を行いました。ライフジャケットとヘルメットを装着し、午前中は、浅いポイントで主に水生生物調査を実施し、カワゲラやヘビトンボなどを捕まえて遊びました。子どもたちは徐々に水に慣れていきました。午後には、ウェットスーツを着込み、淵のあるポイントまで移動し、泳いだり、飛び込んだりして遊びました。さらに天然の滝の滑り台ポイントまで移動して遊びました。

### 6.2 Bコース概要

Bコースには、南三陸町から、子どもたち24人が集まりました。男子14人、女子10人、小学3、4年生18人、小5、6年生6人でした。

Bコースは川活動を予定していた二日目は、雷雨になり屋内プログラムへ変更となりましたが、天候が回復した最終日の午前中に川の体験活動を実施しました。ウェットスーツにライフジャケット、ヘルメットを装着して、水生生物調査、淵での泳ぎや飛び込み遊び、さらに天然の滝の滑り台ポイントまで移動して遊びました。



ライフジャケット、ヘルメットを装備  
最初は恐る恐る・・・



水生生物観察  
徐々に水に慣れて  
きました



ウェットスーツを着込みました



浮かんでみました



泳いでみました



飛び込んでみました



天然の滑り台で滑ってみました

### 6.3 水辺の活動の全般

子どもたちが、水辺での活動を通し安全、安心が積み上げられたかについては、行動観察チームによる結果の分析が必要となります。この速報では、あくまでバックアップチームからみた感触のみ記します。水辺の活動に参加できた子どもたちは、どちらのコースについても、おおむね、安全、安心が確保された上での水辺でのアクティビティを安心して楽しんでいるように見受けられました。美しい自然の中で川や水の体験活動は、子どもたちになんらかの力を与えることができたのではないかと、思われます。



行動観察の様子

## 7. スタッフ会議

子どもたちの就寝後 22:00 から、毎晩全スタッフ会議を開催し、子どもたちの様子の報告、行動観察チームからの状況などを共有することができました。今回は、事前の準備期間が十分とはいえなかったことから、このスタッフ会議が重要な共通認識醸成の場となりました。

どのように安全・安心感を積み重ねながら楽しんで遊んでもらうか、スタッフ一人一人が意識を高めることができたのではないかと、思います。



スタッフ会議

例えば、Bコースで天候が雨であったことから体育館でフラフープ遊びをしていた子どもから、「もっと遊んでいたい、これまでたくさんは遊べなかったから。」という発言があったり、キャンプで初めて友達となった同士で「あのときはどうだった？被害があった？」「私の親戚は亡くなったんだよ」というような会話が合った、ということなどをスタッフ間で共有していきました。

なお、17日Aコースの3日目、Bコースの初日の昼食時 12 時ごろ震度 3 (M5.2) の地震が発生しました。Aコースの子どもの中には泣き出してしまう子、自宅の様子をととても心配しはじめ、自宅から無事を知らせる連絡が入ると本当にホッとした表情を見せる子がいるなど、まだまだ震災の影響が垣間見られました。

## 8. キャンプ・プログラムについて

安全・安心を積み上げていこうという考えのもと、川でのプログラムについては、例えば、上流の沢登り・ダム湖でのボート、カヤック・川流れといったどちらかという挑戦するような体験活動は行わず、比較的浅い水辺での活動を中心にすえた、水生生物調査、水辺遊びとしました。そのこともあり、水辺では、Aコース、Bコースとも、子どもたちは、ライフジャケット、ヘルメット、ウェットスーツ、そして大人のバックアップ体制と、安全、安心を積み重ねながら楽しく遊ぶことができたのではないかと、感じました。

ただし、水辺以外のプログラムについては様々な課題

が顕在化したと思います。例えば、キャンプ全体の雰囲気づくりのあり方、キャンプの導入部分のプログラムのあり方、年代に配慮したプログラムのあり方、プログラム全体の流れ・構成、柔軟で臨機応変なプログラムの準備、天候が悪かった時の代替プログラムの在り方などです。例えば、導入部分のあるプログラム実施途中で、被災した子どもたちに対して必ずしも好ましいとはいえないアクティビティではないか、との行動観察チームからの意見を受けて、一旦アクティビティを中断したという場面もありました。

今回のキャンプの目的である安全、安心を子どもたちに積み上げるという観点で適当であったか、ということについては、行動観察チームの報告から取りまとめていることとなります。それを受けて、RACとともに、「川育」の一環として、被災地の子どもたちを支援する際の川を活かしたキャンプ・プログラムの構築を検討していければ、と考えています。

## 9. あとがき

キャンプの実施にあたっては、RAC事務局、RAC東

北の皆さん、さらに、キャンプリーダーの大学生等には、本当に子どもたちと親しく接していただきました。また、行動観察チームという新たな取り組みに御協力いただいた、徳山教授、鈴木臨床心理士はじめ集まっていた行動観察チームの皆様には、行動観察のみならず、各班のキャンプリーダー等とともに、子どもたちのお兄さんお姉さん役にもなっていただきました。お陰様で、子どもたちは、大きな怪我も無く、無事キャンプを終了することができました。また、武蔵野大学人間関係学部人間関係学科の藤森和美教授には、事前に様々なアドバイスや、行動観察チームスタッフを集めて頂くなど、多大のご協力をいただきました。ここに深くお礼申し上げます。

そして、今回集まってくれた子どもたちが、このキャンプでの楽しかった思い出をもって、これからの復旧、復興に勇気をもって立ち向かってくれることを心から祈っています。

(担当：研究第1部 河川環境教育班)

## 報告事項 1 (調査研究等)

### 1. 「河川環境管理財団研究発表会」の開催

財団の研究成果を広く周知するために研究発表会を毎年開催しています。今年も、7月21日砂防会館別館1階「淀・信濃」に於いて開催し、国土交通省職員、地方自治体職員、建設コンサルタント、大学関係者等213名が参加されました。今回の発表会は、昨年発表会時のアンケート結果を踏まえた運営（前年度に比べ研究発表等を10分早めたなど）により、質疑応答を含め充実し

たものとなりました。また、群馬大学大学院工学研究科片田敏孝教授より、講演「東日本大震災にみる命の分岐点～今、求められる命を守る防災～」と題して講演をいただきました。

上記の財団本部の研究発表会に加え、今年もそれぞれの地域ニーズを併せた形で研究発表会を名古屋事務所、近畿事務所で開催することとしています。詳しくは、「お知らせ・募集」(P.14) コーナーをご覧ください。



熱心に発表する研究員



片田先生のご講演

(担当：企画調整部)

## 2. 「第18回 河川環境研究会」を開催

当財団では、河川の水質や環境に関する問題について定例的に外部講師をお招きして、貴重な成果を当財団職員の資質向上に役立てるだけでなく、外部を含めたより多くの方々と共有することを目的とした「河川環境研究会」を開催しています。

第18回の今回は、平成23年8月4日当財団にて、横浜国立大学大学院環境情報研究院の益永茂樹教授をお招きし、「河川生態リスクへの展開も含めた化学物質の環境リスク評価とその課題」と題してご講演いただきました。当財団を含め約50名のご参加をいただきました。ご講演の内容について一部を紹介します。

- ・ 欧州における REACH 制度の導入などに伴い、各国の化学物質の管理体制は大きく変わろうとしており、化学物質の利用にはリスク評価が欠かせなくなりつつある。一方、リスク評価は科学に基礎を置きつつも、多くの仮定の上に成り立っており、そこから得られる評価結果には不確実性が不可避である。このような状況にあるリスク評価の実際、その受容、および課題を紹介頂いた。
- ・ 上記に伴い、動物実験の結果や日常の摂取量等からリスク評価を行うなど、化学物質の安全基準の設定方法等を紹介頂いた。
- ・ 喫煙による肺がんは約1年程度、基準を超えるホルムアルデヒドに日常さらされると約4日間寿命が縮まるなど損失余命の考え方を紹介頂いた。
- ・ このほか、生態系に対するリスク管理の考え方や金属に関するリスクの特性などを紹介頂いた。



(担当：研究第2部)

## 3. 平成23年度 第2回アドバイザー委員会の開催

中部地方の河川を主体とした調査・研究事業の一環として平成20年度から行っている研究アドバイザー委員

会を7月25日(月)名城大学「名駅サテライト」で開催し、平成23年度研究テーマが選定されました。

○研究テーマ：「広域避難計画策定のための伊勢湾台風時の疎開実態とその現代ニーズに関する空間的分析」

○研究グループ：愛知工業大学 小池 則満 准教授  
奈良女子大学 西村雄一郎 准教授

今後は、選定された研究内容について、研究グループと当財団名古屋事務所が連携し、研究アドバイザー委員会の指導・助言を受けつつ研究を進めることになります。

(担当：名古屋事務所)

## 4. 「第1回木曾三川治水史資料作成委員会」の開催

第1回木曾三川治水史資料作成委員会は、平成23年7月15日の午後、名古屋市内の名城大学「名駅サテライト」で開催しました。

委員会の主旨は、明治改修完成100年記念として、木曾川沿川の人々に、治水事業を理解してもらうため、治水史・河川環境に関する資料等を分かり易く整理し公開する方法について研究することを目的としています。

委員会のメンバーは、高木不折顧問を座長に、大同大学名誉教授 久保田稔、大同大学准教授 鷲見哲也、国土交通省木曾川下流河川事務所長 浅野和宏、元国土交通省 九津見生哲及び、名古屋事務所長 平光文男の6名です。

今回の主な議題としては、①委員会の規約について、②整理公開方法についてでした。

(担当：名古屋事務所)

## 5. 国土交通省地方整備局等優良工事等表彰

平成22年度当財団が受託した次の業務が優良業務及び優秀技術者表彰を受賞しました。

地整名	表彰権者	表彰区分	業務名	事務所名
関東地整	関東地方整備局長	優良業務表彰 優秀技術者表彰	鬼怒川・小貝川河道環境総合管理検討業務	下館河川事務所
関東地整	京浜河川事務所長	優良業務表彰 優秀技術者表彰	平成22年度多摩川河川環境管理計画検討業務	京浜河川事務所

注) 「平成22年度多摩川河川環境管理計画検討業務」は(株)エコー(代表者)とのJV業務です。

(担当：総務部)

## 報告事項 2 (河川環境学習関係)

### 1. 「第9回世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 東京 2011」の開催

今回で9回目となる「世界子ども水フォーラム・フォローアップ大会」が、「国立オリンピック記念青少年総合センター」を主会場として、8月2日(火)～8月4日(木)の3日間開催されました。

今回は、3年に1度開催され、来年(2012年)3月にフランスのマルセイユで開催される「第6回世界水フォーラム」に派遣する候補者の選考も兼ねる大会でもありました。

全国の中・高校生59名から作文応募があり、大会実行委員会の北野大(明治大学教授)実行委員長ほか6名の実行委員による選考の結果、32名が大会に参加しました。

参加者は、5つの分科会に分かれ、大学生のファシリテーターや記録係等の運営スタッフとともに、熱心な話し合いが行われました。大会2日目の午前中は、東京海洋大学の全面的な協力のもと、隅田川支川の豊洲運河でのEボート体験を行い、東京の超高層ビル群やスカイツリーを望みながら日頃できない貴重な体験をすることができました。

3日目の最終日は、各分科会ごとの工夫を凝らした発表があり、各分科会とも充実した話し合いがなされたことを物語る内容となりました。

この間、多忙にもかかわらず北野実行委員長をはじめ、6人の実行委員の皆さんは子どもたちの様子をじっくりと見ていただきました。

この結果、第6回世界水フォーラムへの派遣候補者の選考もスムーズに行われ、6人の派遣候補者が選ばれ、大会を無事終えることができました。

今後は、来年の3月に向け、実行委員の皆さんの協力を得ながら派遣候補者の勉強会を行うこととしております。



開会式での全員集合(実行委員、参加者、スタッフ)



Eボート体験(東京海洋大学・豊洲運河)



分科会での熱心な話し合い



第6回世界水フォーラム(マルセイユ)への派遣候補者6名の発表

(担当: 研究第1部河川環境教育班)

### 2. 「川の指導者(RACリーダー)養成講習会」の開催

「川に学ぶ」社会をめざすためには、次世代を担う子どもたちに川や水辺を活かした環境学習や体験活動をおして、川に関心を持ち理解してもらうことが重要です。

しかし、川や水辺には内在するさまざまな危険も存在することから、これらの危険を正しく理解し対処できるスキルを身につけ、安全に楽しく指導できる川の指導者の育成も不可欠です。

当財団は、子どもの水辺サポートセンターを中心として、河川環境教育の普及・推進を図る一環として、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会(通称: RAC)認定



の川の指導者（RAC リーダー）養成講習会を毎年度開催しています。

#### 財団本部主催の RAC リーダー養成講習会

##### ・講習会参加者

RAC リーダー講習受講者 8名  
(全員 RAC リーダー講習を修了しました。)

スキルアップ参加者 2名

実習時バックアップ 3名

##### ・日程及び講習内容

6月17日(金)

日本橋消防署において「安全対策について」の一環として普通救命講習(心肺蘇生法、AED 使用法)の講義と実習を行いました。(救命技能認定書が授与されました。)

6月24日(金)

当財団会議室にて「川に学ぶ体験活動の理念」、「対象となる参加者を知る」、「プログラム作りの基礎知識」の講習と実習を行いました。

6月25日(土)

荒川上流の長瀨に会場を移して、「安全対策について」、「川に学ぶ体験活動の基礎技術」、「川に学ぶ体験活動の指導法」の講義と実習を行いました。

6月26日(日)

長瀨付近をフィールドとした「川という自然の理解」及び「川と人、社会、文化の関わり」の講義と実習を行いました。



荒川・長瀨下流部における実習の様子



安全対策についての講義の様子



荒川・長瀨付近での生物調査の実習

(担当：研究第1部河川環境教育班)

#### 北海道事務所主催「RAC リーダー養成講座 in 滝川」

川で安全に楽しく学ぶ指導者育成を目的とした RAC リーダー（初級指導者）養成講座を滝川市で7月16日～18日に開催しました。

水辺の体験活動に熱心な地域で、活動実践者や学校関係者など11名が参加しました。

講座開催前からのあいにくの雨で、石狩川での実習ができませんでしたが、会場周辺の旧川を活用し、スローロープによる救助法やEボートの操船方法などの実習を行いました。

講座参加者には、川の指導者として今後も継続的な活動が期待されます。



川流れ体験



スローロープ講習

(担当：北海道事務所)

#### 名古屋事務所主催「RAC インストラクター I種(中級1)養成講座」

名古屋事務所での初の試みとして、「RAC インストラクター I種(中級1)養成講座」を、平成23年8月6日(土)～8月7日(日)国営木曾三川公園長良川サービスセンターで開催しました。講座は、愛知県、静岡県から7名の参加により、河川における安全対策と救助訓練、



また危機管理に重点をおいた体験プログラム作りを中心に行いました。

体験プログラム作りでは、受講者の経験を生かした活発な議論のもと、発表が進められました。

(担当：名古屋事務所)

### 3. 「プロジェクト WET エducator 養成講習会」の開催

水に関する体験型の教育プログラム「プロジェクト WET (Water Education for Teachers)」の日本国内での普及・展開を図る唯一の機関(プロジェクト WET ジャパン)である当財団では、ファシリテーター(エドゥケーターの育成を行う)養成講習会を開催するとともに、エドゥケーター養成講習会も実施しています。

今年度は、6月18日(土)に実施し、12名の皆さんがエドゥケーターの資格を修得されました。

現在、エドゥケーター講習の修了者は、全国で5,500人余となっております。



講習会参加者の皆さん

(担当：研究第1部河川環境教育班)

### 4. プロジェクト WET 国際会議「Sustaining the Blue Planet Conference」参加報告

プロジェクト WET インターナショナル主催の、水に関する教育及び世界の水問題の解決にフォーカスした国際会議「Sustaining the Blue Planet Conference」が開催され、世界約40ヶ国のプロジェクト WET 加盟団体・ユネスコ等の国際機関・企業約200人が一堂に会しました。水に関し、教育関係者と河川技術者・研究者等が議論する世界初の国際会議ということでした。日本からは「河川環境管理財団における環境教育・防災教育推進の取り組みについて」と題したプレゼンテーションをプロジェクト WET ジャパンの取り組み紹介を踏まえながら事例発表しました。

2回目のオープニングセッションでは若田光一さんと同僚の宇宙飛行士 Richard Arnold 氏の講演があり、Hand-on Education つまり体験学習の重要性を強調して

いたことが印象的でした。

・開催日時：平成23年9月13日(木)～16日(金)

・場所：米国モンタナ州ボーズマン

◇1日目(9月13日)

・フィールドツアー

・レセプション

◇2日目(9月14日)

・オープニング「Sustaining the Blue Planet」

・共通セッション「プロジェクト WET カリキュラム アンド アクティビティ ガイド 2.0 とポータルサイトについて」

・分科会1～4

・アイデアセッション「Urban Water and Sanitation」

◇3日目(9月15日)

・共通セッション「Ecotechnology」

・共通セッション「Innovations in Educational Technology」

・分科会5～6

・アイデアセッション「Water and Ethics」

◇4日目(9月16日)

・共通セッション「Bringing Water and a Sustainable Town Center to Kibera, Nairobi - Kenya」

・分科会7～11

・クロージング

詳細はプロジェクト WET インターナショナル HP

<http://projectwet.org> まで



日本の取り組み事例の発表

国際会議メイン会場の様子



(担当：研究第1部河川環境教育班)

### 5. 平成23年度「川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域」に参加

「川に学ぶ」社会をめざす取り組みの一環として、安全に楽しく川で遊び・学ぶための「川の指導者」育成を主目的とした「川に学ぶ体験活動協議会(通称：RAC)」が、平成12年9月に設立され、平成13年度か

ら毎年度全国各地で「川に学ぶ体験活動全国大会」が開催されています。

11 回目を迎える本年度は、「川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域」として、慶応大学日吉キャンパスを主会場として、平成 23 年 9 月 17 日(土)～19 日(月)の 3 日間開催され、全国から 200 名余の関係者や川の指導者が参加しました。

#### ◇1 日目 (9 月 17 日)

- ・午前は、慶応大学の日吉キャンパスで開会式の後、鶴見川流域で取り組まれているさまざまな体験活動の紹介がありました。
- ・午後は、鶴見川流域の源流から河口までの 5 会場に分かれ、源流探検・多目的遊水地見学・魚捕りと味覚体験・カヌー E ボート体験などを行いました。
- ・夜は、全国各地の名物が集まった交流会が行われました。

#### ◇2 日目 (9 月 18 日)

- ・全国各地の活動事例報告
- ・子どもたちによる川を活かした体験学習の発表
- ・4 つの分科会 (①安全安心の水辺体験の工夫、②学校連携の進め、③防災をテーマとした体験活動、④多様なセクターによる流域連携) で意見交換や情報交換
- ・ミュージシャン白井貴子さんの基調講演とミニライブ (凸凹水辺は地球のえくぼ)
- ・「川に学び、水系・流域に広がる活動へ」をテーマとしたパネルディスカッション
- ・全体会、分科会の報告とまとめ
- ・閉会式 来年度は東北地区で開催されることとなりました。

#### ◇3 日目 (9 月 19 日)

- ・東京湾から鶴見川河口絶景クルーズのエクスカッションが行われました。



カヌー E ボート体験の様子



パネルディスカッションの様子

(担当：研究第一部河川環境教育班)

## 6. 第 1 回「水教育ガイドライン検討委員会」の開催

当財団の子どもの水辺サポートセンターでは、次世代を担う子どもたちの川や水辺を活用した環境学習や体験活動を促進・支援するための安全対策に必要な情報提供や資機材の貸し出しやさまざまな活動プログラムの教材開発・提供を行ってきました。

本年 2 月には、小学校の先生や指導者向けに学校の授業の一環としても使えるように「川を活かした体験型学習プログラム」を開発し編集・発刊しました。

この開発・編集過程で、川だけではなく「水」をキーワードにすることで、子どもたちの学びに対して非常に幅広くいろいろなことが展開できる学習対象となるのではないかとの意見が出され、人間が生活し生きていく上で最も大切な「水」について学ぶことの重要性をまとめるべく、当財団の自主事業として「(仮称)水教育ガイドライン」の策定に向けた検討を行うこととなりました。

「(仮称)水教育ガイドライン」の策定にあたっては、検討委員会を組織して進めることとしており、第 1 回検討委員会が開催されました。

第 1 回検討委員会は、忙しい委員の皆さんが参加しやすいとのことで、夜間の開催となりましたが、非常に充実した内容となりました。

委員会の概要は、次のとおりとなりました。

- ・開催日時 平成 23 年 7 月 20 日(水) 18:30～21:00
- ・場所 (財)河川環境管理財団 会議室
- ・検討委員会メンバー
  - 委員長 角屋 重樹 (文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 部長)
  - 副委員長 金沢 緑 (広島県海田東小学校 元校長)
  - 委員 石井 雅幸 (大妻女子大学 家政学部 児童学科 准教授)
  - 後藤 良秀 (町田市立鶴川第二小学校 校長)
  - 佐原 和久 (埼玉県さいたま市立南浦和小学校 元校長)
  - 丸 節子 (三鷹市立北野小学校 校長)
  - 三田村 裕 (府中市立府中第五小学校 校長)
  - 渡邊 和子 (板橋区立中台小学校 校長)
  - 河崎 和明 (河川環境管理財団 審議役)
- 事務局 研究第一部 兼 子ども水辺サポートセンター

### 〈協議内容の要旨〉

- ・水をテーマとして、子どもたちの感性と理性を育てる一つのカリキュラムであると言うような形でとらえて検討を進める。

- ・感性豊かな子どもたちを育てるという意識を持って望む。
- ・これまでの教科枠にはとられないで、新たな視点で水と子どもたちの関わりを見るとか学ぶべき内容を抽出してみる。
- ・水を感じる段階、水について考える段階、水について感じて考えて扱う段階のような発達段階に応じたわけ方も一つの考え方である。
- ・「水」と「学び」の関連については、さまざまに多様な切り口があり、これらを次回検討会までに「たたき台」として整理してみる。
- ・過去の学習指導要領（特に、昭和 52 年の指導要領）が参考になるので、次回までに参考資料として手に

入れておく。



第 1 回検討委員会の様子

(担当：研究第 1 部河川環境教育班)

## 公園・施設管理コーナー

### 1. 国営木曾三川公園「川とカップ」の探検ツアー 2011 夏を開催

国営木曾三川公園の河川環境教育の一環として、木曾川の上流と下流を繋ぎ川とのふれあい、流域の生きもの、生活、歴史・文化を、地域の親子で体感し学んでもらうことを目的とする事業プログラムです。

#### 第 1 回目 ～竹いかだで うきうき魚っちゃんぐ～

平成 23 年 7 月 31 日(日)、河川環境楽園（岐阜県各務原市）において、みんなで竹いかだを作り、カップの目線で河川環境楽園内の川をいかだで探検しました。



#### 第 2 回目 ～カヌーで ばしゃばしゃ遊いんぐ～

平成 23 年 8 月 12 日(日)、国営木曾三川公園「長良川サービスセンター」から木曾川背割堤（岐阜県海津市愛知県愛西市）において、参加者 28 名の方々とカヌーで長良川横断にチャレンジして歴史の詰まったケレップ水制やワンドをカップになった気分で探検しました。



(担当：名古屋事務所)

### 2. 琵琶湖・淀川にふれよう「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会展」の開催

琵琶湖・淀川水系には、水と暮らし、水系の自然や歴史・文化などを紹介している資料館、博物館が 25 施設あります。これらの施設を「知ってもらう！」ために、淀川河川公園守口サービスセンターで「琵琶湖・淀川流域ミュージアム連携会議」による「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会展」が開催されました。7 月 30 日～



参加者による打ち水風景

8月7日で、展示コーナー、出前講座、体験コーナーなどの催しと、各ミュージアムから活動報告会がありました。  
(担当：大阪事務所)

### 3. 河川環境管理財団杯争奪サンスポ野球大会

第33回河川環境管理財団杯争奪サンスポ野球大会(西日本地区)が、平成23年3～6月に亘り、淀川河川公園の各地区の野球場で開催されました。草野球をつうじて、淀川河川公園の利用促進と市民の健康増進に33年の永きに亘り寄与してきた大会で、毎年200チームの参加があります。今年度は古豪のT.Againが初優勝を誇りました。

なお、7月16日に東日本地区で優勝を飾ったFsと

野球のメッカである東京ドームで東西決戦を行い、Fsチームが4対0で勝利しました。



西日本地区優勝に輝いたT.Againチーム

(担当：大阪事務所)

## 河川整備基金コーナー

### 1. 平成24年度河川整備基金助成事業の募集

平成24年度河川整備基金助成事業の募集を下記のとおり行います。

募集開始：平成23年10月1日(土)

募集締切：平成23年11月30日(水)18時

上記期間を過ぎると受付することができませんので、ご注意ください。

なお、今年度からインターネット又は電子メールによる申請となりましたのでご協力をお願いします。

どちらか都合の良い方法で期限までに申請してください。

申請様式等の詳細につきましては、9月下旬に当財団のホームページに掲載する予定です。

問い合わせ先：研究第一部 矢野、橋本、清水(土・日・祝日を除く9:15～17:30)

(担当：研究第1部基金班)

## 出版案内

### 1. 「川を活かした体験型学習プログラム」を好評販売中

先の河川環境管理財団ニュースNo.39号でも紹介しましたとおり、本年2月に「川を活かした体験型学習プログラム」を発刊しました。

本書は、小学生が川をフィールドとして、安全に楽しく学び遊ばささまざまな体験活動の指導書として、小学校の学校現場でも利用で



きるように作成したものです。本書の編成にあたっては、角屋重樹広島大学大学院教育学研究科教授(現在、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部長)を座長に、小学校長等の教育関係者で構成した「体験型学習プログラムの開発に関する研究会」において監修していただきました。

本書の構成は、まず小学校での体験活動の実践事例を紹介し、さらに、学校現場での実践の参考となるように6つの分野に関する32のプログラムをわかりやすく掲載しています(下記参照)。

序章 水辺体験学習と育成される力

1章 体験学習としての川の魅力

2章 各教科に関連した川を活かした体験学習の実践例(小学校12校)

3章 川を活かした体験型学習プログラム

3-1. 川や水を感じる

- 3-2. 川や水辺の環境を調べる
- 3-3. 川や水辺の生き物を調べる
- 3-4. 環境保全・改善について
- 3-5. 洪水の怖さや防災について
- 3-6. 川と地域の歴史や文化について

#### 4章 体験型学習の支援体制等の関連資料

本書の販売は全国の書店にて、定価 2,310 円（税込）で行っておりますが、当財団に直接申し込み頂いた場合には（メール：mssc@mizube-support-center.org）、2,000 円（税込・送料は別途）で販売しております。

（担当：研究第 1 部河川環境研究班）

## 2. 「水辺の安全ハンドブック（全面改訂版）」を好評販売中

当財団では、川や水辺における環境学習や体験活動の河川環境教育の調査研究や水深に向けたさまざまな取り組みや支援を行っております。

川や水辺をフィールドとした活動は安全が最優先とした啓発を図っている一方で、痛ましい水難事故が毎年発

生している状況から、平成 12 年度に水難事故防止に向けた啓発資料として「水辺の安全ハンドブック」を作成し、その後、一部改定や増刷を繰り返し、全国の子どもたちをはじめ多くの河川利用者に活用していただいています。

本年 4 月、安全に楽しく河川を利用していただくために、内容を大幅に充実・改定し従来の 24 ページから 32 ページとして新たに発刊しました。販売価格は、1 冊 100 円（税込み）としました。申込方法は、当財団「子どもの水辺水辺サポートセンター」をご覧ください。  
<http://www.mizube-support-center.org/contents/handbook.html>

（担当：研究第 1 部河川環境教育班）



## お知らせ・募集

### 1. 「第 18 回河川整備基金助成事業成果発表会」のお知らせ

この発表会は、前年度の助成事業成果報告の中から、助成事業成果評価委員会で「成果を広く周知し活用を図っていくべきもの」と評価されたものについて、成果の社会還元を目的に毎年開催しているものです。

発表会では、現地における研究者等の最新の研究成果が発表され、毎回活発な意見交換が行われていますので、是非ご参加ください。

- ・日 時：平成 23 年 10 月 26 日（水）13:00～18:00（予定）  
10 月 27 日（木）9:30～17:00（予定）
- ・会 場：発明会館（東京都港区虎ノ門 2-9-14）
- ・最寄駅：虎ノ門駅（東京メトロ銀座線）3 番出口徒歩 5 分  
霞ヶ関駅（東京メトロ丸の内線、日比谷線、千代田線）A13 番出口徒歩 13 分
- ・主 催：（財）河川環境管理財団
- ・参加費：無料
- ・問い合わせ先：（財）河川環境管理財団研究一部  
矢野、橋本、松浦、清水  
（担当：研究第 1 部基金班）

### 2. 「河川環境管理財団地方事務所研究発表会」の開催案内

地域ニーズを踏まえた形で研究成果を広く周知するため、名古屋、大阪において下記のとおり地方事務所研究発表会の開催を予定していますのでお知らせします。

#### 名古屋事務所研究発表会

- 日 時：平成 23 年 11 月 16 日（水）13:00～17:30
- 会 場：愛知県産業労働センター「ウインクあいち」  
1001 大会議室  
愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38  
TEL: 052-571-6131
- 交 通：JR 名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面徒歩 5 分  
ユニモール地下街 5 番出口 徒歩 2 分
- 定 員：150 名（参加費無料）

（担当：名古屋事務所）

#### 近畿事務所研究発表会

- 日 時：平成 23 年 12 月 5 日（月）10:30～17:30
- 会 場：大阪マーチャングイズ・マートビル（OMMビル）2F 会議室  
大阪市中央区大手前 1 丁目 7 番 31 号

交通：地下鉄谷町線「天満橋駅」1番出口より OMMビル地下2階に連絡 / 京阪電車「天満橋」東出口より OMMビル地下2階に連絡

定員：180名（参加費無料）

（担当：近畿事務所）

### 3. 「平成 23 年度川に学ぶ全国事例発表会」の開催案内

当財団の子どもの水辺サポートセンターでは、子どもたちの川や水辺を活かした環境学習や体験活動を普及・推進する一環として、全国の学校や市民団体等が取り組んでいるさまざまな活動事例の発表の機会となる「川に学ぶ全国事例発表会」を毎年度開催しています。

発表事例は、平成 22 年度河川整備基金の助成事業のうち、国民的啓発運動部門の中から「川と人々のかかわりを深めるための河川愛護活動・河川環境学習・人材育成」をテーマとした 5 事例、「小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動」をテーマとした 5 事例を予定しています。

なお、事例発表と併せて、一般参加者も含めた子どもたちへの防災教育に関するパネルディスカッションならびに意見交換の機会も設ける予定です。

第 10 回となる「平成 23 年度川に学ぶ全国事例発表会」は、下記の日程と内容で開催する予定です。

・開催日時：平成 24 年 1 月 27 日（金）10：00～17：00



平成 22 年度事例発表会の様子



平成 22 年度事例発表後の意見交換の様子

・会場：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館・大講義室

（東京都港区港南 4-5-7）

・定員：250名（参加費無料、申込み先着順）

・主催：（財）河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

※プログラムの詳細につきましては、後日当財団ならびに子どもの水辺サポートセンターのホームページで紹介するとともに、チラシ配布を予定しています。

（担当：研究第 1 部河川環境教育班）

### 4. 「プロジェクト WET ファシリテーター講習会」の開催予定

アメリカで開発された水に関する教育プログラムであるプロジェクト WET（Water Education for Teachers）は、当財団がプロジェクト WET インターナショナルとライセンス契約を結び、「プロジェクト WET ジャパン」として、日本国内で唯一普及啓発機関となって指導者の育成や普及活動を展開しています。

プロジェクト WET のプログラムを使用するには、エドゥケーター養成の講習会を修了する必要があります。現在、国内には 5,500 人余りの方がエドゥケーターの資格を有しています。

このエドゥケーター養成講習会を開催できる資格を有する人を、ファシリテーターと称しますが、これには、エドゥケーターとしての指導実績に加え、コーディネーター（プロジェクト WET ジャパンの代表）が開催するファシリテーター養成講習会を受講し、修了する必要があります。現在、国内のファシリテーターは 225 名となっています。

本年度のファシリテーター養成講習会は、下記の日程で開催する予定です。詳しくは、後日、プロジェクト WET ジャパンのホームページで紹介します。

・開催日程 平成 24 年 1 月 21 日（土）～ 22 日（日）  
2 日間の予定

・開催場所 （財）河川環境管理財団 会議室



平成 22 年度（第 10 回）講習会の様子



第10回講習会で認定された新しいファシリテーター

(担当：研究第1部河川環境教育班)

## 5. 「平成23年度プロジェクトWET & ワイルド合同全国大会」の開催予定

プロジェクトWETの姉妹プログラムとして、野生生物を題材とした環境教育プログラム「プロジェクト・ワイルド」があります。

プロジェクトWETのエducーターやファシリテーターの多くは、プロジェクト・ワイルドの資格も保有し、日頃の活動の中で、両方のプログラムを有効に活用しています。

このようなことから、平成21年度にプロジェクトWETとプロジェクト・ワイルドの合同による全国大会を開催しました。この大会を通して、参加者のスキルアップや参加者同士のネットワークが構築されるなど大きな成果を上げることができました。

このため、合同による全国大会を毎年度継続して開催するべきとの意見や要望を受け、第3回目となる本年度も下記のとおり開催する予定です。

《平成23年度（第3回）プロジェクトWET & ワイルド合同全国大会の開催概要》

- ・日時 平成24年2月11日（土）～12日（日）  
2日間
- ・場所 「高尾の森わくわくヴィレッジ」（東京都八王子市川町）
- ・対象者 プロジェクトWETのエducーター及びファシリテーター  
プロジェクト・ワイルドのエducーター及びファシリテーター



第2回全国大会お役立ちアイスブレイク



第2回全国大会プロジェクトWET・ワイルド複合事例

(担当：研究第1部河川環境教育班)

## 編集発行 財団法人 河川環境管理財団

編集事務局 企画調整部 担当：河崎、江幡

**本部** 〒103-0001  
東京都中央区日本橋小伝馬町11-9  
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F,3F)  
<http://www.kasen.or.jp/>  
E-mail:info@kasen.or.jp

**総務部** TEL 03-5847-8301 FAX 03-5847-8308  
**企画調整部** TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308  
**研究第一部** TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309  
**研究第二部** TEL 03-5847-8304 FAX 03-5847-8309  
**研究第三部** TEL 03-5847-8305 FAX 03-5847-8310  
**研究第四部** TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310  
**東京事務所** TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310  
**子どもの水辺サポートセンター**  
TEL 03-5847-8307 FAX 03-5847-8314  
<http://www.mizube-support-center.org/>  
E-mail:msc@mizube-support-center.org

**北海道事務所** 〒060-0061  
札幌市中央区南1条西7丁目16-2 (岩倉ビル)  
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953  
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>  
E-mail:info-h@hkd.kasen.or.jp

**名古屋事務所** 〒450-0002  
名古屋市中村区名駅4-3-10  
TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627  
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>  
E-mail:info-n@nagoya.kasen.or.jp

**近畿事務所** 〒540-6591  
大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル13F)  
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118  
E-mail:info-o@osaka.kasen.or.jp

**大阪事務所** 〒570-0096  
大阪府守口市外島町4-18 (守口フィットネスリゾート内)  
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095  
<http://www2.kasen.or.jp/>  
E-mail:kohen@osakaj.kasen.or.jp